

# 課題別研修

## 「農民主導による普及手法

### ～市場志向アプローチによる生計向上を目指した農民教育～」

対象国：アフガニスタン、エスワティニ、エチオピア、  
マラウイ、ナミビア、ネパール、ルワンダ、  
シエラレオネ、ザンビア

受入人数：9名

受入期間：2019年11月11日～2019年12月13日



開発途上国においては、いまだ「採れたものを売る」という場当たりの生産が行われがちですが、本コースでは「売るためにつくる」ことへ生産者の意識を転換することが求められています。

昨年引き続き実施した本コースでは、開発途上国で普及員として活躍する研修員が、当地の生産者の方々から直接お話を聞いたり、農産物の付加価値化や流通、消費者のニーズなどについて学びました。

研修をとおして、研修員は、普及員のあるべき姿について改めて考える時間を持ち、更に農業経営やマーケティング、六次産業化といった新しい観点から多くを学び、その結果を生産者のために活用したいという抱負を述べて帰国しました。



夢想農園さんでは、ニッチなニーズをとらえた作物の栽培の様子や、女性生産者ならではの農業への想いをお聞かせいただき、研修員にとっても励みとなりました。



十勝農業普及センター北部支所さんでは、国は違えども同じ普及員としての役割を担う講師と語り合い、生産者支援の重要性を再認識できました。



生産者へ技術普及をするためには、言葉だけでなく、見てわかる教材が効果的です。研修では折紙で鉛筆を作る方法を、写真を含めたマニュアルにしてみました。



研修員の国でも栽培されているものの、収穫時期が重なることで売れ残り、すぐに傷んでしまうトマト。消費期限を延ばすため、ジャムにする方法を学びました。